

2月26日(日)、所沢松が丘自治会では、高齢化が進む中、中央会館・西集会所の施設・設備等について、**改善・改良の意見交換会**が開催されました。意見交換会で出された要望・意見は50件を超えました。施設の改善では、玄関やトイレに手摺をつけて欲しい、洋式トイレを増やして欲しい等の要望がありました。

今回、この要望に基づいて玄関やトイレに手摺をつけました。



<玄関の手摺> <トイレの手摺>

手摺の取付は民生委員の清水さんに行なってもらいました。

所沢松が丘自治会 会長 藤原敏郎

[編集] [削除] 0コメント

連休初日の夏を思わせる暖かい散歩日和に、『カフェテラス松が丘』では、50人の参加者がありました。空き巣事件が頻発している『松が丘の街』で、初めての試みとして、所沢駅前派出所のお巡りさんをお願いして、『具体的な空き巣対策』について、お話を伺いました。



ゴミ出しの合間、幼稚園バス待ち時間等、ほんの短い間でも、空き巣は狙っているというお話にびっくり。その対策は？

- (1) 家に居る時も、居ない時も戸締まりを必ず実施する。
- (2) 空き巣は、窓から侵入するので窓は、
 - ・施錠し、キーをロック状態にする。
 - ・二重キー(市販300円位/個で可)を窓の上に取り付ける。
 - ・防犯フィルムを窓ガラスに張り、ガラスを破れずらくする。
- (3) 家の周りに梯子、工具類を置かない。
- (4) 門扉は必ず閉めておくことで、用心深い家を思わせる。

以上は、空き巣が侵入するのに手間が掛かったり、音がしたりで、犯罪を諦めざるを得ない家になるポイントです。一番怖い事は、空き巣と対面してしまうことです。常に戸締まりに気を使いましょう。

お巡りさんの解りやすい説明に、参加した皆様も真剣に聞き入っていました。松が丘から近い、所沢駅前派出所の警部補さんです。地元の人々に、開かれたポリス・ボックスの感を受けました。ご多様中にもかかわらず、出前説明会を快くお引受け頂き、ありがとうございました。

カフェテラス松が丘 望月瑞絵

[編集] [削除] 0コメント

空き巣狙い情報！

残念ながら先週全戸配布しました『緊急防犯ニュース24-5号』の空き巣狙い8件の他に2件の空き巣狙いが発生しており、今年になって10件となりました。

- (9)2-40エリア 長期不在中 ガラス戸破り 実害なし
- (10)2丁目 4月5日(木) 子供を迎え中の短時間 2階ベランダ 現金

なお4月8日(日)の新班長会では所沢警察署生活安全課の関根課長より、多発している空き巣と振り込み詐欺の犯行手口などの話がありさらなる注意喚起を求められました。

- ご近所の長期不在の家には、気に留めて注意を払ってください！
- 不審者、おかしいと思ったら、すぐに警察へ通報してください！



『わんわんパトロール』に申し込んでパトロールに参加しましょう！

自治会では最近「わんわんパトロール」(愛犬と散歩しながら)の活動を続けている人が少なくなっていますが、今後は犯罪の抑止となるこのパトロールを推進していきます。所沢市では別添のとおりパトロールの仲間を募集中です。登録しますと別紙の「パトロールグッズ」が配布されますが、申し込みは個人での登録が必要です。市では現在グッズが品切れ状態ですが登録順に6月頃には配布するので早く登録すれば早く入手できるということです。なお登録申込用紙は、**所沢市のホームページ**から入手できますが、中央会館に用紙を準備してありますので活用してください。

6月23日(土)『地域パトロールの集い』開催します

防犯担当理事 林 一正、宮下 昇

[編集] [削除] 0コメント

4月14日(土)、昨年に引き続きご好評でありました「身近な医療」関係のお話を、松が丘在住の医師である西澤正隆先生にいただきました。この講演会は、「松が丘交流広場」主催で、「所沢松が丘自治会」と「松が丘たすけ愛の会」協賛で行われました。当日は寒い雨の日でしたが、40の方が参加されました。



会場の後ろには、先生がこの講演のために参考にされた本が30冊ほど並べられていました。『ターシャからの伝言』『よく生きよく笑いまさ死と出会う』『さよならエルマおばさん』『大切な人をどう看取るのか』『死ぬときに後悔すること25』『自分を大切にするための小さなエンディングノート』など。

この講演のテーマであるリビング・ウィルとは「健やかに生き、安らかに死ぬ権利を自分自身の手で守るために！ 生きている間に自分自身で書いておき、生きている間に有効となる遺言である」と定義して話をすすめていただきました。

リビング・ウィルを書くメリットとして、下記の5点をあげて説明していただきました。

- (1) **スパゲッティ症候群**にならずに自分の望む尊厳ある死を迎えることができる。
- (2) ご家族様は悲しみの中でも旅立つ人を穏やかに看取ることができる。
- (3) 医療、看護、介護等に携わるスタッフは**燃え尽き症候群**にならずにすむ。
- (4) ご家族様や国にとっても医療費が安くすむ。

国民1人が一生に使う医療費の約2~5割が死の直前2ヶ月間に使われるという報告もある。

- (5) 死に方が決まれば生き方が決まる。
- 私は、このような高額な費用がかかるのを初めて知りました。

講演では、先生が看取った患者の例を12件ほど紹介してくれました。このような具体的な話は非常に役に立ちました。リビング・ウィルがあっても、家族の間での意見の相違があり、そのとおりにならないなどです。

最後に、アイルランド民謡「春の日の花と輝く」を先生のハーモニカに合わせて、二人の人が前に出て、みんなで歌いました。



食べることができなくなったら、水だけ摂り、枯れて逝くのが一番いいのではないかと思います。このためには、在宅介護では、家族、かかりつけ医、訪問看護、病院に対して決めておくことが必要なのも判りました。

福祉担当理事 岩本

[編集] [削除] 0コメント

所沢市立荒幡小学校の第31回入学式が、平成24年4月9日に、同校において新入生76名(松が丘地区9名)、教職員、来賓、保護者、在校生からなる約500名の参加者のもとで開催されました。所沢松が丘自治会からは鶴田副会長が来賓として参列しました。

